

大雪山GSS山岳パトロール日誌より紅葉の高原温泉 夏山シーズンは終了 厳しい冬に向かいます

2023. 10 No. 91

- ・局長着任挨拶
- ・地域林業活性化の実現に向けて（網走西部森林管理署）
- ・エゾシカによる農林業被害の軽減対策の推進（保全課）
- ・こんにちは森林官です！ えたいべつ 恵岱別森林事務所（北空知支署）
- ・若手職員のコーナー（十勝西部森林管理署）



林野庁



北海道森林管理局

北海道森林管理局長 着任あいさつ

吉村 洋



10月1日付で北海道森林管理局長に就任した吉村と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。読者の皆様におかれては、日頃から北海道の国有林を温かく支えていただくとともに、『北の森林 国有林』をご愛読いただき厚く御礼を申し上げます。

森林管理局長を経験するのは中部森林管理局以来2度目で、直前までは、独立行政法人農林漁業信用基金の役員として、林業・木材産業を営む事業者の皆様が融資を受ける際の債務保証に携っていました。北海道での勤務は初めてですが、果てしない大空と大地が広がるこの地で、豊かで広大な国有林の管理経営に携わる機会に恵まれたことに感謝しているところです。

さて、我が国の森林資源は年々充実し、関係者のご努力に加え、カーボンニュートラル、グリーントランスフォーメーションなどの国際的な潮流の中で、森林の役割や林業・木材利用の重要性については年々理解が深まってきているのではないのでしょうか。各地で建設が進む木造の大規模・高層建築物はその一端の表れでしょう。

一方で、「これまでに経験したことの無い大雨」と形容される豪雨の常態化、資源高・物価高と人

手不足の深刻化、人口減少に伴う様々な需要の減退など、克服すべき課題も山積しています。

こうした中、北海道の国有林については、奥地・高標高地に立地していることから、まずは豊かな生態系の保全、水源の涵養、災害の防止などの公益的機能の発揮のための適切な管理と効率的な施業に努めてまいります。

また、北海道庁や市町村の皆様とも連携しながら、木材を安定的に供給しつつ、大口の供給者として、木材の需要拡大に向けた働きかけにも力を入れたいと考えています。

さらに、約300万ヘクタールの国有林は北海道の面積の4割弱を占めており、地域とのご縁が深いことから、その適切な利活用によって地域経済の振興に貢献したいと考えています。

加えて、こうした取り組みの過程で得られたノウハウや技術を積極的に発信することにより、民有林林業や木材産業の発展を下支えするほか、民有林における災害発生時や森林の現況把握の必要が生じた際には、ヘリコプターやドローンによる上空からの調査をはじめ、地域のニーズに応じた支援にも努めてまいります。

今後とも、国民の皆様からお預かりしている国有林の価値を高め、その存在によって地域に貢献できるよう努力してまいりますので、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 略 歴 ●

出身地 大阪府

| | |
|-----------|---------------------|
| 昭和 63年 4月 | 農林水産省入省（京都府立大学卒業） |
| 平成 21年 5月 | 内閣官房行政改革推進室企画官 |
| 平成 22年 9月 | 林野庁林政部経営課特用林産対策室長 |
| 平成 25年 4月 | 林野庁森林整備部治山課山地災害対策室長 |
| 平成 26年 7月 | 林野庁森林整備部整備課造林間伐対策室長 |
| 平成 28年 8月 | 林野庁国有林野部業務課長 |
| 平成 29年 7月 | 林野庁国有林野部経営企画課長 |
| 令和 元年 10月 | 中部森林管理局長 |
| 令和 3年 10月 | 独立行政法人農林漁業信用基金理事 |
| 令和 5年 10月 | 北海道森林管理局長 |



国民の森林・国有林

地域課題の解決に向けた取組

地域林業活性化の実現に向けて

網走西部森林管理署

【はじめに】

網走西部森林管理署は、オホーツク総合振興局管内の湧別川流域の遠軽町及び湧別町に所在する約 10.6 万 ha の国有林を管理しています。

当署管内の森林は、地域の主要河川である湧別川とその支流が水源地域となり、地域の生活用水をはじめ、農林水産業の振興に資するなど重要な役割を担っています。

【地域の現状と問題点】

網走西部流域全体で人工林の約 6 割を占めるトドマツが、今後本格的な利用期を迎えます。一方で林業労働者は、機械化が進む木材生産分野では増加傾向にあるものの、造林・種苗分野では人力主体の作業かつ季節労働が多い状況であるため、その確保が難しくなっています。

このため、今後トドマツが本格的な利用期を迎える中で、再造林を確実に行うためには、少ない人手でより広い面積を植栽できること、また、苗木の生産力の向上が課題になっています。

このような中、コンテナ苗は、植栽作業が効率化でき、また、植栽可能な期間を長期化できることから、植栽面積の確保に有効と考えられます。加えて、少ない人手で生産可能でもあり、その普及が期待されています。



トドマツコンテナ苗

【地域課題に対する取組】

当署においては、地域課題に対する取組として、トドマツのコンテナ苗が夏季に植栽可能であるか、トドマツよりも育苗期間が短く初期成長が良いとされるドイツウヒがトドマツの代替となるかを検証するための試験林を設定しています。

この試験林は平成 30 年に設定しており、植栽

した苗木の 1 年後の活着率や、5 年後の残存率と生長率の調査を実施しています。

トドマツ夏季植栽については、植栽 1 年後の活着率及び 5 年後の残存率は普通苗に比べ良好な結果（コンテナ苗は活着率 100%）となりました。

また、ドイツウヒについては、トドマツに比べ 5 年後において、残存率は下回ったものの、生長率は上回り、期待が持てる結果となりました。

この試験林に加え、令和元年度にクリーンラーチ夏季植栽及びドイツウヒ、令和 2 年度にカラマツ夏季植栽及びドイツウヒの試験林も設定しており、さらに検証を深めたいと考えています。



上空からのコンテナ苗試験林。令和 4 年度には、民有林・国有林の技術交流の場として現地で意見交換も行いました。

【今後に向けて】

今年度からの新しい取組として、肥料を与えることで、通常は 4 年程度の育苗期間を 2 年に短縮したトドマツコンテナ苗を植栽し、試験林に設定しました。

今後も、様々な機会を通じてこれらの試験結果等について発信し、地域の林業活性化の実現に向け取り組んでいきます。



育苗期間短縮苗試験林の植栽時の様子

エゾシカによる農林業被害の軽減対策の推進

北海道森林管理局は、エゾシカによる農林業被害の軽減に向け、エゾシカの捕獲事業を実施するほか、自治体との連携による捕獲、狩猟者への対応に取り組んでいます。

計画保全部保全課

【エゾシカの現状】

エゾシカは、日本国内に広く生息するニホンジカの7つの地域亜種の一つで、道内全域に分布しています。エゾシカの生息数は、令和3年度末で約69万頭と推定され、北海道の西部を中心に近年では増加傾向にあるとされています。

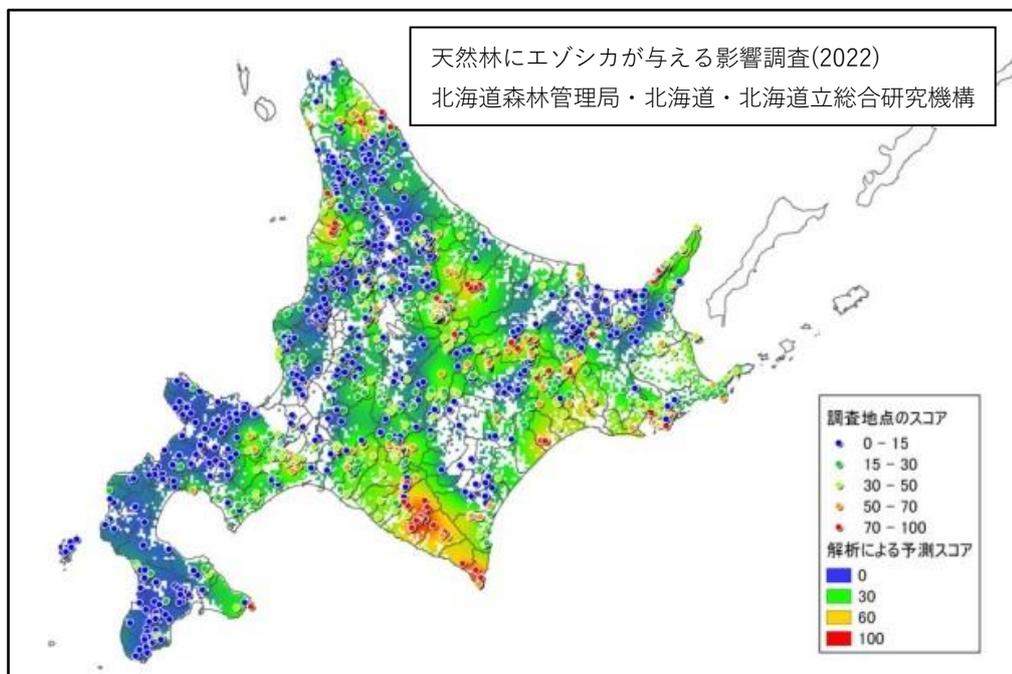
エゾシカによる農林業被害額は、令和3年度44.8億円で、令和2年度と比較して4.1億円の増加となり、2年連続での増加となっています。

また、ニホンジカによる森林への被害は、全国的にみると、平成に入った頃から顕著になっており、地域によっては下草が採食されて表土がむき出しになることで土砂が流れ出すなど、深刻な状況となっています。北海道においても、生息密度が高い地域では同様の状況がみられます。加えて、交通事故など社会的な影響も生じており、捕獲による対策が必要になっています。

【エゾシカはどこにいるのか】

捕獲の効率を高めるためには、エゾシカの生態を知ることが大切です。比較的狭い範囲で活動する関東以西のニホンジカに比べて、エゾシカ個体群の多くは、森林と農地の間を季節で行き来し、時には、100kmも移動することが知られています。

基本的にオスとメスは別々の群れで行動し、夏には草地や農地周辺で牧草などの農作物を採食しますが、秋から冬にかけては、オスが十数頭のメ



北海道森林管理局では、北海道や北海道立総合研究機構と連携し、エゾシカによる影響評価マップを作成しています。森林管理局の職員が、森林に出向いた際にその場所の状況を記録し、スコアが高い(赤い)場所ほど、エゾシカの影響が大きいと評価されます。また、エゾシカは、ササ、樹木の枝や皮、森林内に自然に発生した若木も採食しますが、その影響は見えづらく、じわじわと蝕むように森林被害が進んでいきます。このため、歳月による変化がわかるよう全道各地に「定点」を設け影響調査を実施しています。

スを引き連れ、針葉樹林などに集まります。

そして、冬は森林内でササや木の皮を採食し、飢えをしのいで春を待ちます。このような場所を「越冬地」と呼んでいます。捕獲者の手が届かない奥地の国有林に集まることも多く、ここでの効率的な捕獲がポイントになります。

【森林づくりとしての捕獲事業】

エゾシカにより、森林の健全な育成への影響がみられることから、北海道森林管理局では、森林づくりの一環として森林整備事業によるエゾシカの捕獲事業を実施しています。具体的な方法としては、囲いわな(8月号参照)やくくりわなのほか、林道を封鎖したうえで、餌による林道付近への誘因と林道上からの発砲を行うモバイルリングなども行っています。



エゾシカによる食痕。エゾシカは下草や稚樹だけではなく、成長した樹木にも被害を与えます。

【職員によるわなの設置】

狩猟者の高齢化など、捕獲者不足と言われている中、職員がくくりわなを仕掛けて捕獲することにも取り組んでいます。

この取組は、宗谷森林管理署で実施しており、令和2年度から令和4年度までに合計53頭を捕獲し、今年度も実施を計画しています。実際にわな捕獲に携わる中で、どういう箇所でわなを仕掛けると効果的なのか、わなの凍結をどう防止するかなど関係者の方々からアドバイスをいただきながら経験を積み重ねているところです。



くくりわな（上）とくくりわなで捕獲されたエゾシカ（下）

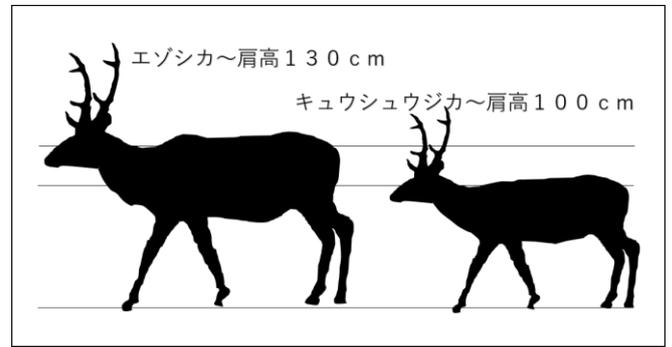
【自治体等との連携による捕獲】

エゾシカの越冬地はおおむね判っているものの、積雪等で捕獲者が現地に行けないというケースもあります。このような場合、自治体との協定締結により、森林管理署が林道除雪とエサによる誘引を、自治体が捕獲を実施する取組も行っています。

また、自治体単独の捕獲事業実施にあたり、積極的に国有林野を捕獲の場として利用していただいています。

【狩猟について】

狩猟は、個人の生業や趣味などとして行われるものですが、二ホンジカによる被害軽減に一定の役割を果たしています。北海道においても、令和3年度のエゾシカの捕獲数は約14万頭ですが、そ



エゾシカのオスは、体重が約130～150kgにもなり、同じ二ホンジカの地域亜種であるキュウシュウジカ（オスの体重約60～100kg）と比べて、かなり大きくなるため、狩猟の対象として人気が高く、道外からも多くの狩猟者が訪れます。

のうち狩猟によるものは3.4万頭で、捕獲数のおよそ4分の1を占めています。

狩猟のために国有林に入林する際には、事前手続きを要しますが、狩猟がエゾシカによる被害を軽減していることを踏まえ、北海道森林管理局では、入林手続きの申請先を北海道森林管理局に一元化し、従来の紙による手続きのほか、オンライン手続きを可能とするなど狩猟者の負担軽減にも務めています。

【狩猟による事故防止に向けて】

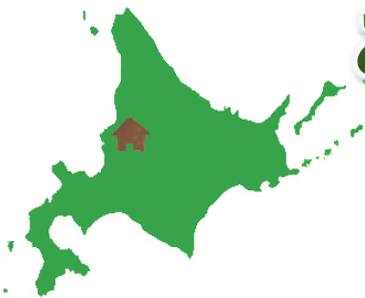
道内の可猟区は、一部猟区を除いて狩猟に関する管理を行わない、いわゆる「乱場^{らんば}」となっており、猟銃による事故も後を絶ちません。国有林には、森林整備などの各種事業の実施や森林レクリエーションを楽しむためなど、様々な目的で人が訪れます。猟銃による事故は、被害者は勿論ですが、加害者にとっても一生を左右する重大な事態となるため、狩猟者向け講座の開催やルール徹底の呼びかけを行うとともに、森林整備やレクリエーションでの入林が見込まれる区域への銃猟禁止区域の設定と誤侵入防止のためのゲートや目印の設置などの安全対策を行っています。

【おわりに】

森林内に自然に発生する若木も食べてしまうエゾシカの増加は、将来の森林の姿を変えてしまう可能性があり、適切な森林の管理経営を進める上で大きな支障となります。また、農業や地域の生活において深刻な問題となっています。

冬期に越冬地に集まってくるエゾシカをいかに効率的に捕獲するかがカギとなっており、エゾシカによる被害の低減のため、今後とも市町村等と連携し、取り組んでいく考えです。

こんにちは 森林官です!



空知森林管理署北空知支署 えたいべつ 恵岱別森林事務所
森林官 村上 繁紀



【地域のご紹介】

恵岱別森林事務所は、空知総合振興局管内の北竜町に所在しています。管轄する雨竜町と北竜町は、どちらにも「竜」の文字がありますが、雨竜町の名はアイヌ語の「ウリロペツ(鵜の多い川)」から転訛したと言われます。北竜町は雨竜町の一部でしたが、明治32年の行政区分離の際、恵岱別川を挟んで雨竜町の北に位置することから「北竜」と名付けられました。両町とも稲作、畑作、牧場などの農業が基幹産業で、農畜産物を使った名産品が多くあるほか、北竜町は作付面積日本一の「ひまわり」を活用した町おこしに、雨竜町はラムサール条約に登録された「雨竜沼湿原」の玄関口としての町づくりに取り組んでいます。

【恵岱別森林事務所の概要】

管轄する国有林は暑寒別天売焼尻国定公園の一部を含む恵岱別川兩岸の約11,300haで、恵岱別森林事務所の建物は、今から19年前に建設された住居付き事務所です。職員は私一人のため、深川森林事務所の3人の職員と一緒に作業に当たり、今年度は誘導伐などの森林整備事業を実施するほか、低コスト造林に向け取り組んでいる「表土戻し地拵」の試験地での調査を実施します。

【地域に親しまれる国有林】

森林官として国有林を管理するに当たり、きめ細やかな地域への対応を心がけています。その一つが、毎月欠かさず行っている本誌「北の森林 国有林」の自治体への配布です。今はメール、LINE等で、簡単に連絡ができてしまう時代ですが、あえて自分から役場の林務担当者に顔を出して地域の課題を聞いたり、国有林をアピールができればいいな、と思いながら足を運んでいます。

支署全体でそういった雰囲気でも地域対応しており、その甲斐あってか、北竜町からの「保育園の建材に地元の木材を」という要望を受け、平成30年に国有林からカラマツを供給しました。完成した保育園に、自分たちが育てた木材が使われていると思うと感慨深いものがあります。

【最後に】

恵岱別森林事務所は小さな事務所ですが、国民の財産である国有林がより開かれた「国民の森林」となるよう、地域との連携を念頭におき、国有林の管理・経営に関する業務はもちろん、市町村担当者との情報共有のほか、地元行事へも参加することにより、地域から信頼される「森林事務所」を目指していきたいと思えます。



写真：(左) 圧巻の200万本ひまわり祭り (北竜町) (中) 初夏に花が咲き誇る雨竜沼湿原 (雨竜町)
(右) 国有林から供給したカラマツを用いて建設された北竜町の保育園。ふるさとの木材に囲まれて子どもたちが育ちます!

各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

「縁桂森林(えんかつらもりもり)フェスティバル」を開催



【檜山森林管理署】



9月23日、乙部町の「縁桂風景林」で「縁桂森林フェスティバル」が開催されました。

縁桂は「巨樹・巨木100選」に選定されている樹齢500年、高さ40メートル、幹の周囲が最大で6.1メートルあるカツラの太木です。隣り合う2本の木から伸びた枝が地上7メートルのところでは結合し、縁結びの神様が宿るとされています。

女性は右側の木に、男性は左側の木に触れると縁が結ばれると、言われています。縁桂前では、乙部八幡神社の宮司による神事が行われ、参加者は幹に触れて良縁を祈っていました。

「職場体験プログラム」を実施



【留萌南部森林管理署】



林野庁では、大学生等を対象に、就業意識の醸成、森林・林業、国有林野事業に対する理解を深めてもらうことを目的に就業体験実習（インターン）を実施しています。

留萌南部森林管理署は9月の4日間、東京の大学生1名を受け入れました。

実習生の希望を踏まえ、高性能林業機械、GPS測量、ドローン飛行とそのデータの活用など先進的な林業の体験、また治山事業や林道事業の実際の現場を多く体験できるようなカリキュラムを作成し実施しました。

リモコン草刈機実演会を開催



【渡島森林管理署】



9月6日、森町の鳥崎国有林において渡島総合振興局東部森林室と共同で、下刈りの低コスト化や省力化に向け、「低コスト造林に向けたリモコン草刈機実演会」を開催しました。

当日は、森林管理署、北海道、近隣の市町村、森林組合及び林業事業体などのほか、一般の方も含め総勢87名の参加があり、参加者がリモコン草刈機の操作を行い、操作性を体感しました。

実用に懐疑的な意見も出されましたが、導入に興味を持ち納期を確認する林業事業体もあるなど、多くの反応をいただきました。

アイヌ共用林野における林産物(ヤナギの枝)の採取



【日高南部森林管理署】



新ひだか町と当署は、「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」に基づくアイヌ共用林野設定契約を締結しています。9月4日に新ひだか町三石国有林において、三石アイヌ協会による初めてのヤナギの枝の採取に協力しました。

祭具（イナウ）に適したヤナギの枝には様々な条件がありましたが、必要な枝を無事に採取することができました。採取されたヤナギの枝は、イナウとして、9月19日に日高町で執り行われた儀式に使用されました。

広報 「北の森林 国有林」10月号

発行 林野庁北海道森林管理局

編集 総務企画部 企画課

〒064-8537

札幌市中央区宮の森3条7丁目70

電話 011-622-5213

HP <https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

【ホオノキとヤマガラ】

ホオノキは朴葉味噌など、食材を包めるくらい大きな葉が特徴です。

秋に実る真っ赤な種子は、ヤマガラをはじめ野鳥たちの貴重な食糧です。



今月の表紙